

指定管理施設評価 年間評価シート

令和4年度評価 (令和5年度実施)

1. 施設概要

Table with 4 columns: 施設名, 所在地, 指定管理者, 指定管理者所在地, 施設分類, 事業実施型, 選定方法, 公募, 指定期間, 主な業務内容, 利用料金制, 施設所管課, 電話

2. 指標

Table with 5 columns: 施設の設置目的, 管理運営における基本理念, 評価指標 (来館者数, 来館目的の満足度), R4年度, R3年度, R2年度

3. 管理運営状況

Table with 6 columns: 項目, 詳細, 現指定管理者 R4年度, 現指定管理者 R3年度, 現指定管理者 R2年度, 市の使用料収入

Table with 4 columns: 利用者満足度調査結果, 実施時期, 回答数, 主な調査内容及び満足度

指定管理施設評価 年間評価シート		令和4 年度評価 (令和5 年度実施)	
施設名	三田市立図書館(本館・ウッディタウン分館・藍分室)	施設分類	事業実施型
指定管理者	TRC三田	施設所管課	地域共創部市民協働室文化スポーツ課

4. 各項目における評価内容

評価の観点	評価項目	項目区分	指定管理者セルフ評価	市評価
Ⅰ. 基本的なサービスの提供	(1)施設運営に係る協定事項の遵守	適正管理	3 適正	3 適正
	(2)利用者の安全確保	サービス効果	4 やや優れている	3 標準
	(3)利用承認、案内等の対応と接遇	サービス効果	3 標準	3 標準
	(4)市、関係団体、地域等との連絡調整	サービス効果	3 標準	4 やや優れている
	(5)施設の目的に沿ったサービスの提供	サービス効果	3 標準	3 標準
	(6)目標の達成度	サービス効果	4 やや優れている	4 やや優れている
Ⅱ. 施設の管理	(1)建物保守管理・設備機器類の安全管理	適正管理	3 適正	3 適正
	(2)収納・文書・備品の適正管理	適正管理	3 適正	3 適正
	(3)清掃・衛生管理・警備	適正管理	3 適正	3 適正
	(4)指定管理者が行う修繕	サービス効果	4 やや優れている	3 標準
	(5)コスト削減、環境配慮の取り組み	サービス効果	4 やや優れている	3 標準
Ⅲ. 事業の実施【事業実施型のみ】	(1)効果的な情報提供	サービス効果	3 標準	3 標準
	(2)委託事業(ソフト事業)の実実施計画	サービス効果	3 標準	3 標準
	(3)委託事業(ソフト事業)の目標達成	サービス効果	3 標準	4 やや優れている
	(4)自主事業への取り組み	サービス効果	3 標準	3 標準
	(5)共生社会の推進に向けた取り組み	サービス効果	3 標準	4 やや優れている
外部評価委員会による事業評価	(1)基幹業務	サービス効果		4 やや優れている
	(2)選書	サービス効果		4 やや優れている
	(3)広報	サービス効果		3 標準
	(4)ITを活用した図書館サービス	サービス効果		4 やや優れている
	(5)子どもの読書活動推進	サービス効果		4 やや優れている
	(6)高齢者、障害者、外国人の読書環境づくり	サービス効果		4 やや優れている
	(7)ボランティアとの協働	サービス効果		4 やや優れている
Ⅳ. 満足度向上への取り組み	(1)苦情等への対応	サービス効果	3 標準	3 標準
	(2)利用者獲得及び収入増加に向けた取り組み	サービス効果	3 標準	3 標準
	(3)利用者ニーズに応じた改善	サービス効果	4 やや優れている	4 やや優れている
	(4)利用者の満足度	サービス効果	4 やや優れている	4 やや優れている

(得点率=評価項目の評点の合計÷満点×100)

得点率	73%
総合評価	A

適正管理【3段階】	サービス効果【5段階】
3	5 優れている
2	4 やや優れている
1	3 標準
3	2 やや劣っている
2	1 劣っている
1	課題有
1	要改善



得点率	総合評価
概ね80%以上 ※	S 優良
概ね70%以上 ※	A 良好
概ね60%以上 ※	B 標準
概ね50%以上	C 要努力
概ね50%未満	D 要改善

※評価項目に1つでも1の評価がある場合は、C以下とする

5. 総評

<p>指定管理者による所見</p> <ul style="list-style-type: none"> 館外に出向いて図書の貸出等、図書館サービスを展開するアウトリーチ事業については目標回数を大幅に上回った。 電子図書館の学校連携実証実験では児童による利用が大幅に増加し、大きな成果を得た。 高齢者サービスでは地域包括支援センター共催で認知症の啓発活動を実施し、広い世代に関心を持ってもらえた。 今後は非来館サービスについてもSNS等を活用した広報活動を通じて認知度を高め、より多くの市民に利用してもらえる図書館を目指していく。
<p>市による所見</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の沈静化によって、来館者数が増加傾向となった。 利用者アンケートでは、来館目的の満足度、スタッフの対応とも90%以上が満足との回答を得ている。 手話や認知症についての啓発展示など市の施策に相乗効果をもたらす取り組みやバリアフリー映画会の開催、外国語資料の充実など共生社会推進に資する事業が実施された。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者からは概ね高い評価を得ているが、図書館サービスの内容が十分周知されていないために図書館を利用していない、あるいは貸出等、一部のサービスのみ利用している市民も多く、図書館の潜在的な利用者を掘り起こす必要がある。 <p>【今後の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館を利用していない、あるいは貸出等、一部のサービスしか利用していない市民に対し、広報やイベント開催により、図書館の魅力や役割を周知していく。 利用者層の拡大や新しい利用形態の確立に向け、今年度整備予定のICタグを利用した自動貸出機やオンライン利用登録の技術を活用していく。